

つながりサポーター養成講座

標準テキスト



令和7年4月時点版

1	はじめに	p1～3
2	孤独・孤立の何が問題か	p4～9
3	つながりを考えてみよう	p10～12
4	調査結果からわかること	p13～17
5	困ったときどうする？	p18～23
6	相談窓口を知ろう	p24～28
7	地域活動を知ろう	p29～30
8	最後に	p31
	参考資料	p32～38

孤独・孤立に悩む人を 誰ひとり取り残さない社会を目指して

いまの社会は、単身世帯の増加や働き方の多様化などにより、家族や地域、会社などとのつながりが薄くなり、誰もが孤独・孤立状態に陥りやすい状況になっています。

孤独・孤立状態になると、最初は小さな悩みや困りごとであったものが、一人で抱えこんでしまうことで複雑化・深刻化することがあります。

こうした状況に対応するため、政府は2021年12月に「孤独・孤立対策の重点計画」を策定し、2023年5月には「孤独・孤立対策推進法」が成立しました。

孤独・孤立対策推進法の下で、「孤独・孤立に悩む人を誰ひとり取り残さない社会」「相互に支え合い、人と人との『つながり』が生まれる社会」を目指していきます。

「つながりサポーター」とは？

「つながりサポーター」は、なにか「特別なことをする人」
「しなければならない人」ではありません。

孤独・孤立の問題について知識を身につけ、
身の回りの人に関心をもち、
できる範囲で困っている人をサポートする人です。

孤独・孤立の問題は、生活環境や雇用環境の変化などで、
誰にでも起こり得ます。

まずは、孤独・孤立について正しく「知る」ことで、
孤独・孤立の問題を偏見なく「自分ごと」として捉えていくことが
大切です。



「つながりサポーター養成講座」とは？

孤独・孤立に関する知識を学び、
みんなで孤独・孤立について考える場所が「つながりサポーター養成講座」です。

ここにいる皆さん同士のつながりも大切にしながら、
「誰もが困ったときに気軽に声を上げられる・かけられる社会」の実現に向けて、
一緒に踏み出していきましょう。



孤独・孤立とは？

～孤独・孤立の何が問題か～

孤独・孤立とはどのような状態なのか？

なぜ、孤独・孤立は問題視されているのか？

社会的な背景や具体例を交えながら見ていきます。

ポイント

- つながりが薄くなっている「社会構造上」孤独・孤立状態が生まれやすくなっている現状があり、「自己責任」ではない
- 孤独・孤立の問題は「一人であること」ではなく、悩みや困りごとが生じた際に一人で抱え込んでしまい、複雑化・深刻化すること

孤独・孤立とはどのような状態？

孤独・孤立とは、一般的には以下のように言われています。

「**孤独**」 **主観**的概念であり、ひとりぼっちと感じる精神的な状態を指し、寂しいこと
という感情を含めて用いられることがある

「**孤立**」 **客観**的概念であり、社会とのつながりや助けのない又は少ない状態を指す

孤独と孤立は密接に結びついてますが、

孤立しているが孤独は感じていない

孤立していないが孤独を感じている

ということもあり得ます。

大事な点は、一人でいても、つながっても良いということ。

「一人でいること」自体が問題ではなく、悩みや困りごとが生じた際に一人で抱え込んでしまうことで、
複雑化・深刻化するのが問題であるということです。

日常にある「つながり」

「気の合う人がいる」「一緒に趣味に熱中できる友人がいる」「自分の活動を影ながら応援してくれる人がいる」
私たちは日々の生活の中で、意識せずともさまざまな人とつながっています。

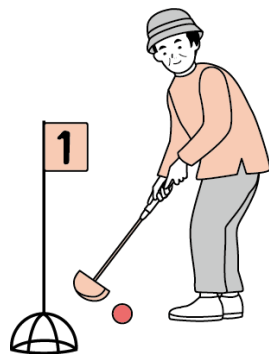
このような日常のつながりによって、悩みや困りごとが複雑化・深刻化することを予防できるかもしれません。

（例）日常にあるつながり

毎日仕事が忙しいけれど、
雑談できる人がいる



地域の公園で毎週、
仲間たちとグラウンド・ゴルフ
を楽しむ



家に帰ったら「おかえり」と
言ってくれる人がいる



共通の趣味を持った人が
集まるオンラインコミュニティに
参加していて、好きなこと
について話せる人がいる



孤独・孤立に陥りやすい「つながりの薄い」社会

近年の社会環境の変化により、家族や地域、会社などとのつながりが薄くなり、誰もが孤独・孤立に陥りやすい状況になっています。

この状況は、社会の変化によって生じており、個人の責任（自己責任）ではありません。

さらに、ソーシャルメディアを使って多くの人とオンラインでつながっていても、孤独・孤立状態にある場合もあります。

働き方の多様化
ワーキングプアの増加
企業福祉の縮小

会社とのつながり

雇用の保障や
手厚い福利厚生

過疎化や高齢化
地域組織の衰退

地域とのつながり

地域の互助組織や
支えあい

少子高齢化
単身世帯の増加

家族とのつながり

家族や親族などによる
援助

オンラインのつながり

SNSやチャット、
オンラインコミュニティ



（例）つながりの薄い人の声

低賃金で残業も多い。
いつまで仕事を
続けられるか不安

足腰の痛みで一人で
買い物に行くのが大変。
近所に頼める人もいない

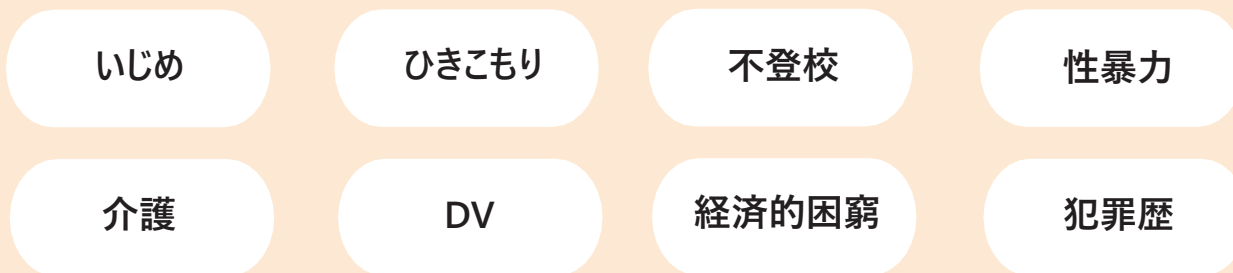
一人暮らしの親が
高齢になってきて心配だが、
相談できる親族がいない

孤独感を紛らわすため
SNSに毎日投稿している

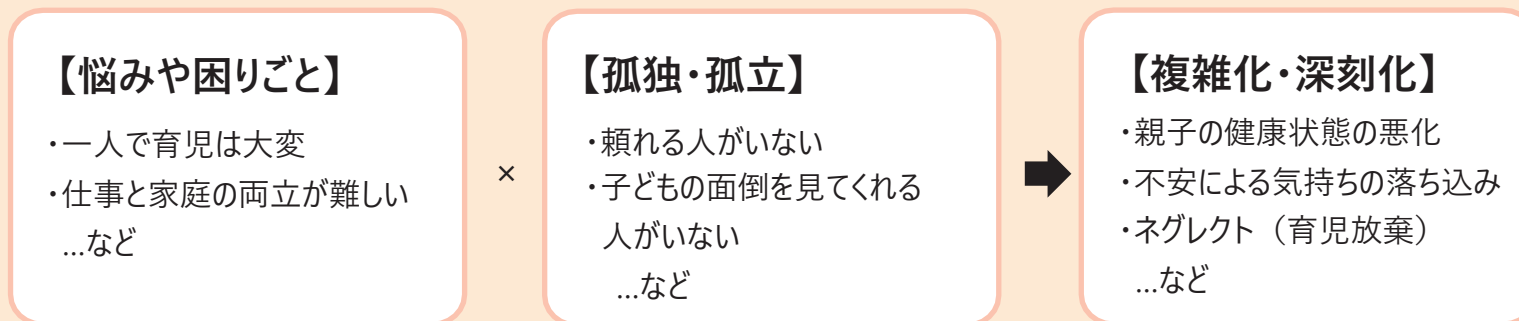
つながりの薄い社会では一人で声を上げづらい

つながりが薄い社会では悩みや困りごとが生じた際、**一人で声を上げづらく、抱えこんでしまうことがあります。**

一人で声を上げづらい状況の例



悩みや困りごとが複雑化・深刻化する例：子育て



「孤独・孤立の何が問題か」

ポイント

- つながりが薄くなっている「社会構造上」孤独・孤立状態が生まれやすくなっている現状があり、「自己責任」ではない
- 孤独・孤立の問題は「一人であること」ではなく、悩みや困りごとが生じた際に一人で抱え込んでしまい、複雑化・深刻化すること

孤独・孤立とは？

～つながりを考えてみよう～

あなたの日々の「つながり」は？
いくつかの質問に答えながら、
周囲とのつながりについて考えてみましょう。

つながりを考えてみよう

問1

あなたは、自分には人とのつきあいがないと感じることがありますか。

1. 決してない 2. ほとんどない 3. 時々ある 4. 常にある
-

問2

あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。

1. 決してない 2. ほとんどない 3. 時々ある 4. 常にある
-

問3

あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。

1. 決してない 2. ほとんどない 3. 時々ある 4. 常にある
-

丸をつけた数値の合計点を計算してください。

点

つながりを考えてみよう

家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についてお尋ねします。あなたと同居していない家族や友人たちと直接会って話す頻度は、次のうちどれがあてはまりますか？
○をしてください。

問 4

週4～5回 以上	週2～3回 程度	週1回程度	2週間に1回 程度	月1回程度	月1回未満	全くない

孤独・孤立とは？

～調査結果からわかること～

回答いただいた質問4つは、実は令和6年に行われた全国調査「人々のつながりに関する基礎調査（内閣府 孤独・孤立対策推進室）」の質問内容と同じものになっています。
その調査結果に関して、いくつかポイントをご紹介します。

ポイント

- つながりが薄い社会では、孤独・孤立の問題は誰にでも起こりうる
- 支援の受け方がわからなかったり、必要でないと考えているために、支援を受けていない孤独・孤立状態の人がいる
- 相談できる人が身近にいること自体が、孤独感を和らげることにつながる



孤独・孤立とは？ 調査結果からわかること

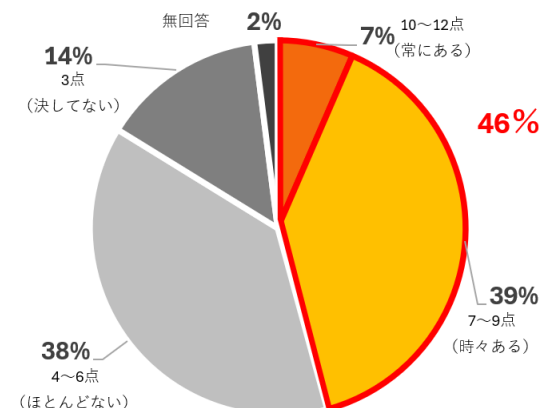
約4～5割の人が孤独を感じている

問1～3

- ①あなたは、自分には人とのつきあいがないと感じることがありますか。
- ②あなたは、自分は取り残されていると感じることがありますか。
- ③あなたは、自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。

- | | |
|-----------|---------|
| 1. 決してない | 3. 時々ある |
| 2. ほとんどない | 4. 常にある |

・孤独感が「10～12点（常にある）」「7～9点（時々ある）」の人が**46%**

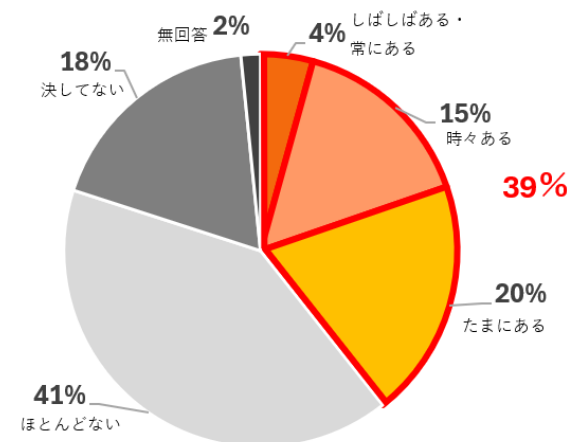


令和 6 年 (10,871)

あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。

- | | |
|-----------|----------------|
| 1. 決してない | 4. 時々ある |
| 2. ほとんどない | 5. しばしばある・常にある |
| 3. たまにある | |

・孤独感が「しばしばある・常にある」「時々ある」「たまにある」人が **39%**



令和 6 年 (10,871)

※問1～3は「UCLA孤独感尺度」に基づく質問であり、3つの設問への回答点数化し、その合計スコア（本調査では最低点3点～最高点12点）が高いほど孤独感が高いと評価している。
「孤独」という言葉を使用せずに孤独感を把握することから、この調査では「間接質問」と呼称する。これに対し、孤独感を直接的に把握している質問を「直接質問」と呼称する。



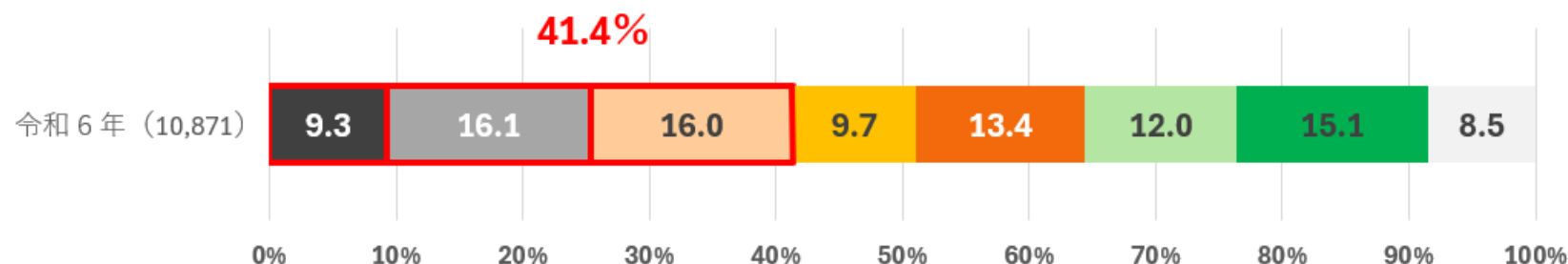
孤独・孤立とは？ 調査結果からわかること

同居していない家族や友人との会話は、 「全くない」が約 1 割、「月に 1 回程度以下」が約 4 割

問 4

同居していない家族や友人たちと直接会って話す頻度は？

■ 全くない ■ 月 1 回未満 ■ 月 1 回程度 ■ 2 週間に 1 回程度 ■ 週 1 回程度 ■ 週 2～3 回程度 ■ 週 4～5 回以上 ■ 無回答



- ・「直接会って話すことが全くない」人が**約 1 割**
- ・「月に 1 回程度以下（※）」の人が**約 4 割**

※「全くない・月 1 回未満・月 1 回程度」と回答した人を「月に 1 回程度以下の人」としています



調査結果のポイント

各ポイントの詳しいデータはp34～

① 孤独感に影響を与える出来事はライフステージのあらゆる場面で起こりうる

「家族との死別」「心身の重大なトラブル（病気・怪我等）」「転校・転職・離職・退職（失業を除く）」など

② 相談相手がいないと、孤独感を抱える割合が高い

不安や悩みの相談相手が「いない」場合、「いる」人と比べて、孤独感を常に抱えている人が約6～7倍多い

③ 支援を受けていない理由、「受け方がわからない」「必要でない」がそれぞれ約4割

「必要でない」と回答した人の中には、ひとりで抱え込んでしまう人も多いだろうということが推測される

④ 約7割の人が「相談することで楽になる」と回答

⑤ 不安や悩みの相談相手は「家族」が約9割、「友人・知人」が約6割

「調査結果からわかること」

ポイント

- つながりが薄い社会では、孤独・孤立の問題は誰にでも起こりうる
- 支援の受け方がわからなかったり、必要でないと考えているために、支援を受けていない孤独・孤立状態の人がいる
- 相談できる人が身近にいること自体が、孤独感を和らげることにつながる

困ったときどうする？

ここまで「孤独・孤立とは？」というお話をしてきました。

では、自分や周囲の人が孤独・孤立状態に陥り、
悩みや困りごとを抱えたときには、どうしたらいいのでしょうか。
個人ワークを通して考えてみましょう。

ポイント

- 自分が困ったときの備えとして、ふだんから「誰に相談できるか」を考えておくこと、
「どのような相談窓口があるのか」を把握しておくことが重要
- 周囲の人の悩みや困りごとには、「気にかける」「相談窓口につなぐ」など、
できる範囲で無理なくサポートすることが大切

困ったときどうする？

自分が困ったときはどうする？

以下の悩みや困りごとを抱えたとしたら、あなたはどのようにしますか？

問1

職場（地域）の集まりで嫌なことがあった。明日から行くのが気まずい。どうしよう？

問2

認知症の親の介護が大変で仕事ができない。どうしよう？

問3

失業して収入もなくなってしまった。貯金も尽きてしまう。どうしよう？

自分が困ったときはどうする？

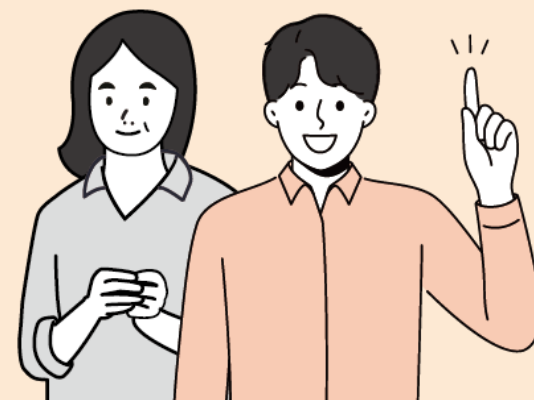
「約7割の人が『相談することで楽になる』と答えた」という調査結果を紹介しましたが、
「誰に相談したらいいかわからない」と思われた方も少なくないのではないのでしょうか。

内容によっては「心配をかけたくないから相談しにくいな」と感じた方もいらっしゃるかもしれません。
身近な人に相談しにくい場合には、自治体などの相談窓口を活用することも大事です。

いざ自分が困ったときには、冷静に物事を考えられないことも多いです。
どうしたらいいか途方に暮れてしまうこともあるでしょう。

だからこそ、**ふだんからの備えとして「誰に相談できるか」を考えておくこと、
「どのような相談窓口があるのか」を把握しておくことが大切です。**

また、日頃からいろんな人とつながっておくことも重要です。
近所のカフェに行く、商店街の催しに参加するなど、
日常的なつながりを意識して作ってみるのもできることの一つです。



周囲の人の悩みや困りごとには？

冒頭でお話したように「つながりサポーター」は、なにか「特別なことをする人」「しなければならない人」ではありません。

身の回りの人に関心をもち、できる範囲で困っている人をサポートすることが大切です。

たとえば、「相手のことを少し気にかける」「親身になって話を聞く」といった日常的な行動です。

そうした日常のつながりが、周囲の人の孤独感・孤立感を和らげ、悩みや困りごとが複雑化・深刻化するのを防ぐことにつながるかもしれません。

一方で、自分自身が辛くなってしまうように、無理なくサポートするという意識も大切です。相手の悩みや困りごとを自分だけで抱え込んで解決しようとせず、相談窓口を頼りましょう。

悩みや困りごとが複雑化・深刻化する例：子育て

【悩みや困りごと】

- ・一人で育児は大変
- ・仕事と家庭の両立が難しい
- ...など

×

【孤独・孤立】

- ・頼れる人がいない
- ・子どもの面倒を見てくれる人がいない
- ...など



【複雑化・深刻化】

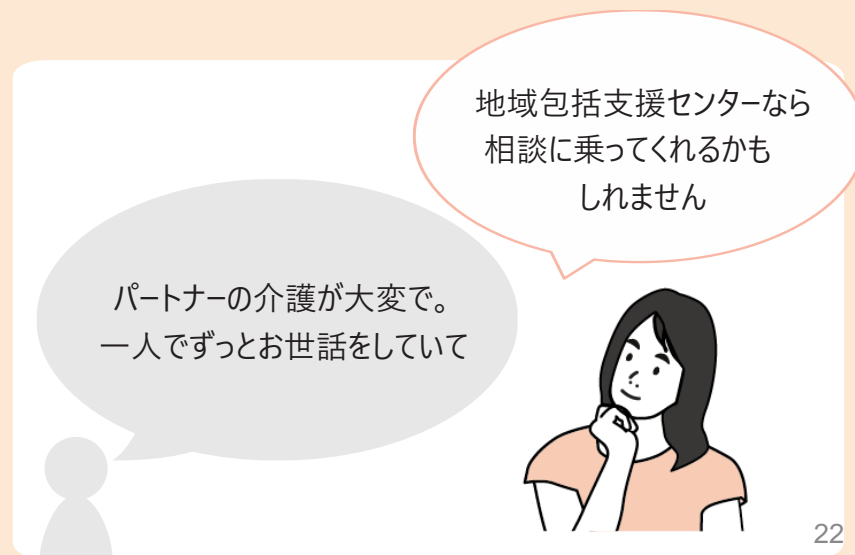
- ・親子の健康状態の悪化
- ・不安による気持ちの落ち込み
- ・ネグレクト（育児放棄）
- ...など

周囲の人の困りごとには？

(例) 気にかける



(例) 地域活動や相談窓口につなぐ



「困ったときどうする？」

ポイント

- 自分が困ったときの備えとして、ふだんから「誰に相談できるか」を考えておくこと、「どのような相談窓口があるのか」を把握しておくことが重要
- 周囲の人の悩みや困りごとには、「気にかける」「相談窓口につなぐ」など、できる範囲で無理なくサポートすることが大切

相談窓口を知ろう

自分や周囲の人が、孤独・孤立状態で悩みや困りごとを抱えたとき。

あなたの周りには、その悩みや困りごとに応える

さまざまな相談窓口があります。

ここからは、どのような相談窓口があるのか把握していきましょう。



地域の相談窓口は？

あなたの住んでいる地域の相談窓口について考えてみましょう。

以下の悩みや困りごとを抱えた際、どのような相談窓口が思い浮かびますか？

▼住まいがなくなった

▼借金のことで困っている

▼子育てで悩んでいる

▼親の介護について相談したい

▼つらい、死にたい、消えてしまいたい

相談窓口を知ることから始めよう

いくつかの相談窓口が思いつきましたか？

まずは、地域の相談窓口を知ることから始めていきましょう。

自分や周囲の人が悩みや困りごとを抱えたとき、頼れる先を知っていること自体が不安感の解消につながったり、悩みや困りごとの深刻化を防ぐことにもつながります。

次のページから相談窓口を紹介しています。

自分だけで抱え込まず、適切な窓口を活用してみてください。

相談窓口リストはp27へ



相談窓口リスト

富山県では、以下のような相談窓口を設置しています。

そのほか、「女性・男性の生き方、家族や職場での人間関係、DV等の様々な悩み」や、「離職された方などに対する職業訓練」「外国人ワンストップ相談センター」など、各種相談窓口をご案内しています。



分野	項目	名前
健康・医療・福祉	認知症に関すること	認知症ほっと電話相談 076-432-6580
	若年性認知症	富山県若年性相談・支援センター 076-432-7501
	心の健康、精神医療、思春期、アルコール関連問題等	心の健康センター 076-428-1511
	ひきこもり状態に関する悩み、問題等	ひきこもり地域支援センター 076-428-0616
	がんに関する治療や介護、就労など	富山県がん総合相談支援センター 076-432-2970
	難病の療養生活	富山県難病相談・支援センター 076-432-6577
	身体に障害のある方の生活・職業・医療・補装具等に関すること、知的に障害がある方に関するこ	障害者相談センター 076-438-5560
	心身に障害のある児童	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 076-438-2233

分野	項目	名前
健康・医療・福祉	障害者虐待に関すること	富山県障害者権利擁護センター ・ 076-444-3959 (平日8時30分～17時00分) ・ 080-8695-3726 (平日17時00分～翌朝8時30分、土日・祝日、年末年始(12月29日～1月3日))
	高次脳機能障害に関すること	富山県高次脳機能障害支援センター 076-438-2233
	発達障害に関すること	富山県発達障害者支援センター (ほっぷ) 076-438-8415
	障害者及びその家族からの様々な相談に関すること	障害者110番 ((一社)富山県手をつなぐ育成会) 076-441-7214
	女性の健康や不妊に関すること	女性健康相談センター・不妊専門相談センター 076-482-3033
出産・子ども・教育	妊娠・出産に関すること	妊娠・出産悩みほっとライン 076-482-3088

相談窓口リスト

富山県では、以下のような相談窓口を設置しています。

そのほか、「女性・男性の生き方、家族や職場での人間関係、DV等の様々な悩み」や、「離職された方などに対する職業訓練」「外国人ワンストップ相談センター」など、各種相談窓口をご案内しています。



分野	項目	名称
出産・子ども・教育	夜間における子どもの急な病気やケガ等に関する事 夜間における子どもの急な病気やケガ等に関する事	小児救急電話相談 076-444-1099 短縮ダイヤル#8000
	不登校、学業、進路、家庭教育などに関する事	教育相談（県総合教育センター） 076-444-6167
	いじめに関する事	いじめ相談専用（県総合教育センター） 076-444-6320（24時間）
	いじめ、不登校、学業、進路、家庭教育などに関する事	東部教育事務所 076-441-3882 西部教育事務所 0766-26-7830
	障害のある乳幼児・児童生徒に関する教育相談及び就学相談	子どもの発達相談（県総合教育センター） 076-444-6351
	子育てに関する不安や悩みに関する事	子育てほっとライン（生涯学習・文化財室） 076-433-4150
	心の問題や不登校、発達の遅れや体の障害などに関する事（直接面談、予約制）	家庭教育カウンセリング（生涯学習・文化財室） 076-433-4150

分野	項目	名称
出産・子ども・教育	子ども達の「友達関係、自分の心や体、部活動、勉強や将来、スポーツ、文化」などの様々な悩みや質問に関する事	子どもほっとライン（生涯学習・文化財室） 076-443-0001
	子ども・若者（概ね39歳まで）の「ニートやひきこもり、不登校」などの様々な悩みに関する事	富山県子ども・若者総合相談センター 076-411-9003
	少年の悩みごとに関する事	ヤングテレホンコーナー（富山中央警察署、高岡警察署） 0120-87-3415
	18歳未満の子どもに関する様々な相談に関する事	富山児童相談所 076-423-4000 高岡児童相談所 0766-21-2124
	子育て全般に関する事	子育てテレフォン 富山児童相談所 076-422-5110（24時間） 高岡児童相談所 0766-25-8314（24時間）

全国で利用できる相談窓口・支援制度は？

全国で利用できる相談窓口・支援制度にはどのようなものがあるか、把握しておきましょう。

悩みや困りごとのある方へ
＜まもろうよ ころ＞
(厚生労働省)



学校でのいじめ等の悩みを
相談したいと思ったら
＜24時間子供 SOSダイヤル＞
(文部科学省)



性犯罪・性暴力の被害について
相談したいとき
＜性犯罪・性暴力被害者のための
ワンストップ支援センター＞
(内閣府)



あなたに合った
相談窓口・支援制度と
つながれるチャットボット
＜あなたはひとりじゃない＞
内閣府孤独・孤立対策推進室



児童虐待かと思ったら
＜児童相談所・児童相談所
虐待対応ダイヤル＞
(こども家庭庁)



配偶者等からの
暴力（DV）かと思ったら
＜DV相談ナビ＞
(内閣府)



悩みや困りごとを抱える人にこのような相談窓口や支援制度を紹介して、頼るよう促したり、一緒に窓口に行ったりすることも、サポーターにできることの一つです。

地域活動を知ろう



地域ではどのような活動が行われているのでしょうか。
主な地域活動をご紹介します。

地域活動を知ろう

富山県内では、以下のような地域活動に関する取組みを行なっています。

▼人とのつながりに資する活動に取り組む支援団体情報

人とのつながりを作る幅広い取組みを行う支援団体を一覧にまとめたものです。

お悩みに応じて情報の絞り込みができるので、「誰に相談すればよいか分からない」「誰かに話を聞いてほしい」と思ったら、気になる支援団体へお問い合わせください。



掲載されている支援団体の例

▼(一社) 富山県若者生きづらさ寄りそいネットワーク協議会

(連絡先)

wakamono.yorisoi.net.toyama@gmail.com



▼民生委員・児童委員

地域において、日常生活で困ったこと、子育てや福祉・介護についての悩みごとなどへの相談・支援を行っています。

(市内の民生委員・児童委員が分からないときは、お住まいの市町村の福祉課にお問い合わせください。)

▼県内市町村ボランティアセンター

ボランティア活動情報の提供を行っています。定期的に広報誌を発行するほか、HPなどで情報発信を行っています。



▼富山県内のこども食堂 (87か所)

[参考]富山県子どもほっとサロンネットワーク

県内のこども食堂に対して寄付やこども食堂に関する事業の斡旋などの支援を行っています。(㈱トップフードへ委託)

県内でこども食堂を立ち上げようとお考えの方又は現在立ち上げておられる方はお気軽にご相談ください。



▼市町村社会福祉協議会

市町村ごとに設置されています。

心配ごと相談や法律相談、困窮されている方の相談、成年後見制度や高齢者・障害者の権利擁護に関する相談、生活福祉資金貸付事業などを行っています。

(市町村社協ごとに支援の詳細が異なるので、詳しくは各市町村社協にお問い合わせください。)

▼女性のつながりをサポートする取組み

行政のみでは支援が届かない女性や支援を受けられることに気づいていない女性に対し、きめ細かな支援を行っています。(様々な団体活動されていますが、令和7年度は7団体が県から受託し実施しています。)



最後に

改めて、大事な点は「一人でいても、つながっても良い」ということです。

孤独であること、孤立していること自体は決して悪いことではありません。

問題なのは、悩みや困りごとが生じた際に一人で抱え込んでしまうことで、複雑化・深刻化してしまうことです。

富山県では、富山県孤独・孤立対策官民連携プラットフォームを令和6年10月に立ち上げました。本県のプラットフォームは、核となり企画・検討を行う①幹事会と、広く県民に参加を呼びかけ、主として普及啓発を目的とした勉強会に参加する②プラットフォームの2層構造となっています。

現在も引き続き、支援団体の皆様のプラットフォーム参加を募集していますので、ぜひご参加ください。

また、プラットフォーム会員や行政職員等を対象に、「孤独・孤立」問題について理解を深め、また支援団体同士の横の繋がりを作るため、勉強会を開催しています。

こうした取り組みを進めていくことで、誰もが困ったときに気軽に声を上げられる・かけられる社会、相互に支え合い人と人との「つながり」が生まれる社会に近づいていくと考えています。この講座にご参加いただいたみなさんとも、ぜひ引き続き一緒に取り組んでいけると嬉しいです。

参考資料

各分野の実践的な養成講座

孤独・孤立の問題に関わる実践的な養成講座には、例えば以下のようなものがあります。

認知症サポーター養成講座

講師役である「キャラバン・メイト」が、地域や職域団体等を対象に、認知症の知識や、つきあい方について講義を行う



あいサポート運動（あいサポーター研修）

障がいの特性や必要な配慮などを理解して、障がいのある方を手助けする「あいサポーター」を養成する



精神・発達障害者しごとサポーター養成講座

精神・発達障害についての知識と理解を持って、精神・発達障害者を温かく見守り、支援する応援者を育成する



心のサポーター養成研修

知識と理解に基づき、家族や同僚など身近な人に対して、傾聴を中心とした支援を行う「心のサポーター」を養成する



ゲートキーパー養成講座

地域や職場、教育の現場でメンタルヘルスを学び、自殺のサインに気づき、見守り、専門の相談機関につなぐ役割を担う「ゲートキーパー」を養成する



ひきこもりサポーター養成講座

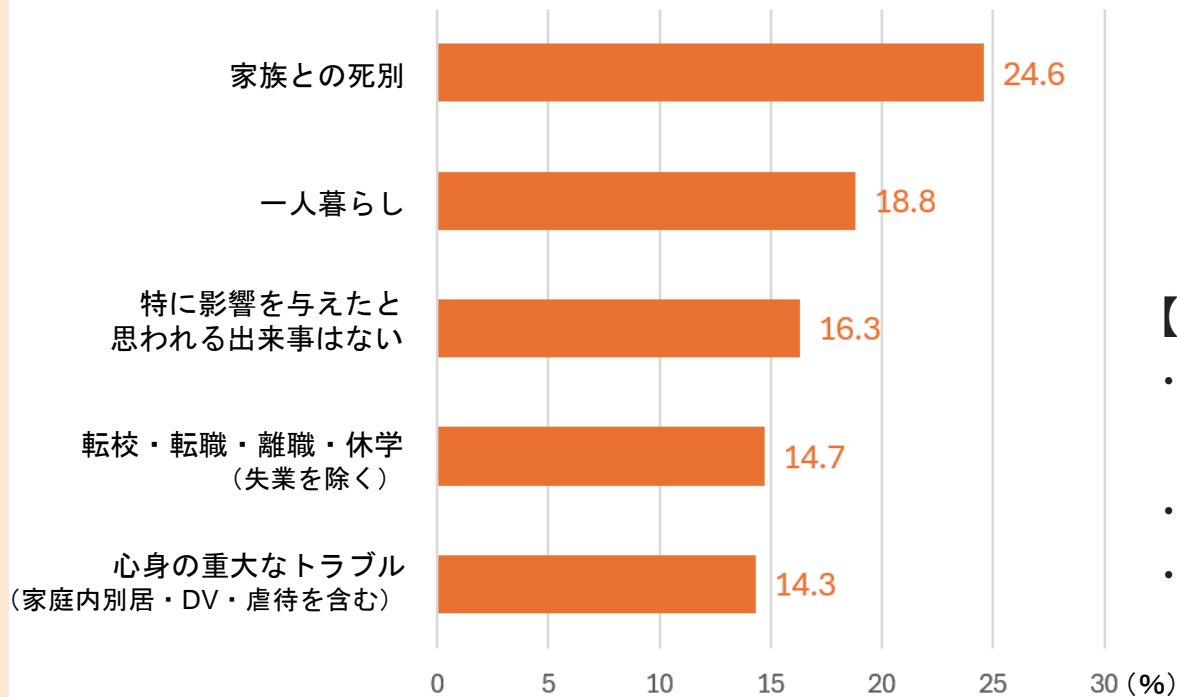
ひきこもりの状態にある方及びその家族に対し社会参加に向けて継続的に関わりをもち、ともに活動したり、適切な支援先につないだり、ひきこもりに対する理解促進を深める活動を行う「ひきこもりサポーター」を養成する



調査結果のポイント①

孤独感に影響を与える出来事はライフステージのあらゆる場面で起こりうる

現在の孤独感に影響を与えたと思う出来事（複数回答）



【その他】

- ・人間関係による重大なトラブル
(いじめ・ハラスメント等を含む)
- ・家族の病気・障害
- ・生活困窮・貧困 ...など

※本グラフは孤独感が「しばしばある・常にある」、「時々ある」又は「たまにある」と回答した人の「現在の孤独感に影響を与えたと思う出来事」から上位5つを抜き出して編集しています

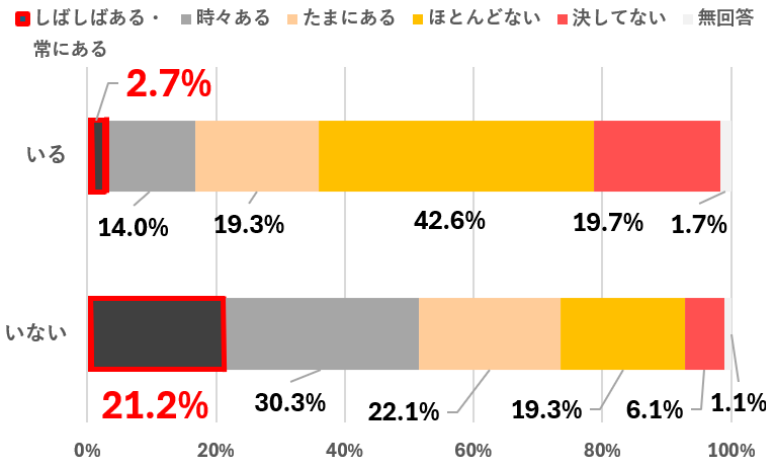


調査結果のポイント②

相談相手がいないと、孤独感を抱える割合が高い

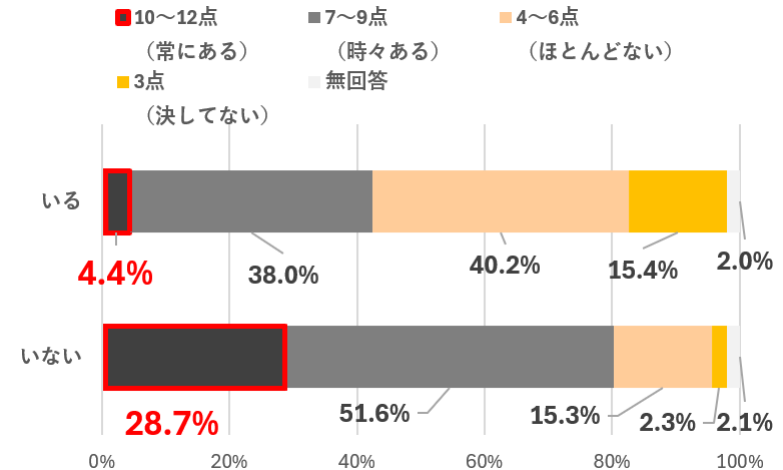
不安や悩みの相談相手がいる人、いない人の孤独感は？

直接質問



- ・いる人「しばしばある・常にある」が **2.7%**
- ・いない人「しばしばある・常にある」が **21.2%**

間接質問



- ・いる人「常にある」が **4.4%**
- ・いない人「常にある」が **28.7%**



調査結果のポイント③

支援を受けていない理由、
「受け方がわからない」が約 4 割、「必要でない」が約 3 割

行政機関やNPO等の民間団体からの支援を『受けていない』人の理由は？（複数回答）

支援の受け方がわからない

【直接質問】 しばしばある・常にある

35.7%

【間接質問】 10～12点（常にある）

34.9%

支援が必要ではない

【直接質問】 しばしばある・常にある

31.3%

【間接質問】 10～12点（常にある）

32.5%

29% 30% 31% 32% 33% 34% 35% 36% 37%

- ・孤独感が「しばしばある・常にある」人の**約4割**が「支援の受け方がわからない」と回答
 - ・孤独感が「しばしばある・常にある」人でも、**約3割**が「支援が必要ではないため」と回答
- その中には、ひとりで抱え込んでしまう人も多いだろうということが推測される

※本グラフは「行政機関やNPO等の民間団体からの支援を『受けていない』人の理由」から「受け方がわからないため」「支援が必要でないため」という理由を抜き出して編集しています



調査結果のポイント④

約7割の人が「相談することで楽になる」

不安や悩みを相談することへの感情は？（複数回答）

(%)

		n	相談すること または解決の手掛かりが得られ る	相談することで解決しなくとも 気持ちが楽になる	相談することが面倒である	相談することが恥ずかしい	相談すると相手の負担になる	相談しても無駄である (相談しても解決しない)	その他	無回答
	全体	10,871	56.5	71.3	8.6	6.1	10.5	10.0	3.2	0.9
直接質問	しばしばある・常にある	471	24.2	43.3	17.8	17.0	25.5	40.8	9.1	1.1
	時々ある	1,678	40.0	65.3	14.1	11.4	18.3	17.3	4.0	0.9
	たまにある	2,129	49.9	74.9	10.9	8.0	14.2	11.4	2.5	0.3
	ほとんどない	4,412	62.9	75.1	6.3	3.8	7.2	5.9	2.6	1.0
	決してない	2,004	71.5	71.9	4.5	2.5	4.4	4.2	2.8	0.5
間接質問	10～12点（常にある）	709	24.3	46.4	20.6	17.2	26.2	36.1	6.2	0.8
	7～9点（時々ある）	4,260	47.1	70.7	12.2	8.7	14.7	13.4	3.5	0.7
	4～6点（ほとんどない）	4,135	64.7	76.3	5.3	3.2	6.0	4.9	2.2	0.8
	3点（決してない）	1,545	76.2	73.0	2.4	2.0	3.8	2.9	3.0	0.3

「相談することで解決しなくとも気持ちが楽になる」と答えた人が**約7割**



調査結果のポイント⑤

相談相手は「家族」が約9割、「友人・知人」が約6割

不安や悩みの相談相手の種類は？（複数回答）

(%)

	n	家族・親族	友人・知人	自治会・町内会・近所の人	仕事・学校関係者 (職場の同僚・学校の先生等)	行政機関(国や自治体)	ボランティア団体・NPO等の民間団体	社会福祉協議会	病院・診療所の医師	その他	無回答
全体	9,858	93.4	59.6	5.9	19.3	3.7	0.9	2.3	14.9	1.9	0.1

「家族・親族」と答えた人が約9割と最も多く、「友人・知人」(約6割)、
「仕事・学校関係者（職場の同僚・学校の先生等）」(約2割)と続く

※本グラフは「不安や悩みの相談相手の種類」の回答から全体の回答結果を抜き出して編集しています

**講座の感想やご意見は
こちらで受け付けています**

富山県 厚生部 厚生企画課 地域共生福祉係
TEL : 076-444-3197 FAX : 076-444-3491
E-mail: akoseikikaku@pref.toyama.lg.jp